



宮田 大 ©Daisuke Omori



TM and © Nakvana. Jointly Licensed by Nakvana Limited and The Clifford Ross Company, Ltd. All Rights Reserved.



高橋アキ



柳家花緑

3.3 [金] 宮田大 チェロ・リサイタル

「そのときにしか聴こえないものを楽しんでいただけたら」
宮田大、リサイタルへの想いを語る

文・聞き手 篠田大基

いま人気、実力ともに若手指折りのチェリスト、宮田大さん。水戸室内管弦楽団のメンバーとしても活躍する彼が3月3日（金）、水戸芸術館で待望のソロ・リサイタルを開きます。プログラムは、エックレスのチェロとピアノのための〈ソナタ 短調〉、武満徹〈オリオン〉、カプースチンの〈チェロ・ソナタ 第2番〉、プロコフィエフの〈チェロ・ソナタ ハ長調〉の4曲。選曲の意図や聴きどころ、共演するピアニストのジュリアン・ジェルネさんについて、宮田さんのお話を伺いました。

宮田大 インタビュー

——今回のリサイタルの曲目はどのような選ばれたのでしょうか？

今回のプログラムは、プロコフィエフのチェロ・ソナタが軸になっています。前にジュリアン（・ジェルネ）と一緒にショスタコーヴィチのチェロ・ソナタを演奏したことがあったんですけど、深い精神性が感じられて、ロシアの音楽っていいなあと思ったんですね。プロコフィエフにも同じような精神があると思まして、今回選ばせてもらいました。

それで、プロコフィエフのほかにもう1曲、何かロシア音楽をと探したんです。自分はカプースチンが大好きで、カプースチンの小品は何度かアンコールで弾いたことがあったんですが、そのうち、お客様もだんだんカプースチンという名

前を覚えてくださるようになって、「カプースチン、弾かないですか」って聞かせてくださる人もいて、それでカプースチンにしようと思いました。このソナタを日本で弾いた人は、もしかしたらないんじゃないかと思うんですけどね。カプースチンは彼自身がジャズ・ピアニストだったこともあって、曲のなかにジャズやブルースのテイストがあって、そのなかにまたプロコフィエフに似た悲しみとか、いろんなテイストが出てきます。そんな喜怒哀楽を聴いていただいて、休憩のときに「ああ、いい曲だったね」ってお客様同士が会話してもらえることを想像しながら、この曲をリサイタルの前半の最後に置きました。

——先ほどおっしゃった「精神性」というのは、ロシアの精神ということでしょうか？

なんと言いますかね……。ソビエトの時代には裕福な生活ができない人が沢山いたと思うんです。自分がもっと若いころは、プロコフィエフやショスタコーヴィチを弾くときは、悲しい音楽だと思って、悲しく演奏していたんですけど、ジュリアンと話し合ったときに、たとえば、貧しい人がちっちゃなパンを食べたときに幸せを感じる気持ち——不自由なく生活できている人なら何とも思わないけれど、やっとのことで手に入れたパンを食べられたときの、あたたかくなれる

気持ち——そういうものを表すことで、同時にその悲しさも表現できるんじゃないかって考えたんです。だから今回は、ぱっと明るくなる、幸せなシーンを大事に弾きたいと思っています。情景が浮かぶように聴こえたらいいですね。

——言葉で書かれていなくても、曲のなかにストーリーを感じて弾いていらっしゃるわけですね。

最近、いろんな演奏会に出させていたっているうちに、曲が全部オペラみたいに聴こえてくるようになったんです。言葉は聞こえなくても、いろんなシーンを映像として思い浮かべていただけたら嬉しいです。

エックレスのソナタも歌っているような出だしですよ（歌う）こう、歌っている人が思い浮かべられます。若いときは、演奏会の1曲目は自己紹介のつもりで、テクニックを見せるようなエネルギーギッシュな曲で始めていたんですけど、お客様がついてきていないような感じがしてきたんです。それで歌える曲から始めるようにしました。演奏会の最初は、まだお客さんが座ったばかりで呼吸が整っていないときなので。エックレスのソナタは、そういう意味でも良いかなと思います。

逆に、今回の曲のなかで、いちばん不協和に聴こえるのは、たぶん武満さんの〈オリオン〉でしょうね。やっぱり自分

としては日本人の曲も入れたいなという思いがあったんですけど、ジュリアンが武満さんの曲をすごくよく知ってるんですよ。それで、ジュリアンの感じる日本人作曲家の音楽のイメージと、それから自分が今までにこの曲をオーケストラとやったときのイメージや、野平一郎さんのピアノともやったんですけど、そのときのイメージとか、いろいろ照らし合わせながらできたらなと思っています。

——（オリオン）をオーケストラと演奏するときとピアノと演奏するときとで、何か違いはありますか？

オーケストラにはいろんな楽器があって、それでオリオンのイメージがぱーっと浮かび上がるんですけど、ピアノとチェロで演奏するときは、もっと濃密な感じになりますよね。目をつぶって聴いていただくと、いろんなものが伝わるんじゃないかなって思います。あとは、最弱音を聴いていただきたいです。皆さんがしーんとしていて、自分も動かずにいて、音だけが漂っている瞬間を味わっていただけたらなと思いますね。水戸芸術

館は響きの良いホールなのでより一層そう思います。

——ピアノのジェルネさんについてご紹介ください。

彼と最初に出会ったのはフランスのモントンの音楽祭で、それからいろんなご縁があって、何度も日本に呼んでいます。即興的な表現が得意で、だからいつも二人で心がけているのは、事前にあまり決め事を作らないで、そのときのインスピレーションで演奏しようっていうことです。「ここはリハーサルで決めたでしょ！」なんて怒ることはあまりなくて（笑）、同じ曲を弾いても毎回全然違うふうになりますね。

——最後にお客様へメッセージをお願いします。

そのときにしか聴こえないもの、聴けないものをお客様に楽しんでいただけたらと思います。僕の方からストーリーを押しつけるのではなくて、お客様それぞれで、いろいろなイメージを膨らませて聴いていただけたらと思います。何もイ

メージがないと、曲って長く感じますものね（笑）。最弱音の話をしましたが、プロコフィエフのソナタの最後なんて大音量の爆発で、彼はコンチェルトをイメージして書いたんじゃないかと思うくらいなんです。そんなふうに、二人の世界から大人数のオーケストラの世界まで、いろいろと楽しめるプログラムじゃないかと思います。

2016年10月28日（金）

★インタビューのロング・バージョンを
水戸芸術館スタッフブログに掲載する
予定です。

宮田 大 チェロ・リサイタル

3/3（金）19:00 開演（18:30 開場）

会場 水戸芸術館 コンサートホール ATM
全席指定 一般¥3,000

ユース（25歳以下）¥1,000 円

出演

宮田 大（チェロ）、ジュリアン・ジェルネ（ピアノ）

曲目

エックレス：ソナタ短調 〜チェロとピアノのための〜

武満 徹：オリオン

カプースチン：チェロ・ソナタ 第2番 作品84

プロコフィエフ：チェロ・ソナタ 八長調 作品119

3.5 茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート ―始 START―（会場：常陽藝文ホール） 茨城ゆかりの演奏家が出演する新しいコンサート・シリーズが始動

文 篠田大基

1990年の水戸芸術館の開館以来、茨城県ゆかりの優れた演奏家を広く紹介してきたオーディション企画「茨城の名手・名歌手たち」。これまでにのべ300組を超える合格者が、ここから巣立ってきました。今年からこの企画に新たな展開が始まります。常陽銀行の後援、常陽藝文センターとの共催により、水戸市内の常陽藝文ホールを会場に、過去の合格者たちが出演する「茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート」を開催することになりました。このコンサートは年2回の開催を予定しており、水戸市芸術振興財団運営維持会員や水戸芸術館友の会会員の皆様、藝文友の会会員、学生の方々は、事前のお申し込みで無料（一般の方は1,000円）でお聴きいただけます。どうぞお気軽にお越しください。

もちろん、毎年春に行う「出演者オーディション」と秋に開催する「合格者による演奏会」は、これまでどおり水戸芸

術館で継続しますので、こちらもご注目いただければと思います（今年のオーディションは4月2日（日）開催。応募締切は2月28日（火）です。合格者による演奏会は9月16日（土）または9月23日（土）の開催で調整中です）。

さて、「茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート」の第1回は、3月5日（日）に開催いたします。出演は、昨年の「茨城の名手・名歌手たち 第26回」に出演した、白石はるかさん（クラリネット。伴奏ピアノは上田実季さん）、庄司菜穂子さん（ソプラノ。伴奏ピアノは案野弘子さん）、Tsukuvago（サクソフォン、トランペット、ピアノ）の3組。今回は記念すべき第1回ということで、「始 Start」というキーワードを設定させていただきました。ご出演の方々には、プログラムのなかに1曲ずつ、「始まり」に因んだ曲を選んでいただいています。音楽家を志すきっかけになった曲、デ

ビュー・コンサートで演奏した曲……。それぞれの音楽人生において忘れられない「始まり」の1曲を、出演者の方々のトークとともにお贈りいたします。3月といえば、新年度の新たな生活に向かって走り出すとき。そんな季節にぴったりのコンサートになりそうです。どうぞお楽しみに！

茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート ―始 Start―

3/5（日）14:00 開場 14:30 開演

会場 常陽藝文ホール（水戸市三の丸1-5-18）

全席自由（要事前申込） 一般 1,000 円

水戸市芸術振興財団運営維持会員、水戸芸術館友の会、藝文友の会会員、学生は無料

申込 常陽藝文センター TEL 029-231-6611

出演 白石はるか（クラリネット）、上田実季（ピアノ）、

庄司菜穂子（ソプラノ）、案野弘子（ピアノ）、

Tsukuvago（サクソフォン、トランペット、ピアノ）

主催 公益財団法人 常陽藝文センター、

公益財団法人 水戸市芸術振興財団

後援 株式会社 常陽銀行

3.26 小さな聴き手のためのコンサート 音楽物語「ぞうのババール」

高橋アキさん インタビュー

柳家花緑さんを迎えて新たに再出発した「ババール」への想い

文・聞き手 高巢真樹

2015年に、人気落語家・柳家花緑さんを語り手に迎えて9年ぶりの上演を果たした「音楽物語 ぞうのババール」。大好評におこたえて、待望の再演が実現します。今回掲載するのは、この企画に1995年の初演からご出演くださっているピアニスト・高橋アキさんへのインタビュー。貴重なエピソードの数々、ぜひご一読ください！

——2015年の「ぞうのババール」では、語り手に柳家花緑さんをお迎えしました。初共演のご感想をお聞かせください。

とても若々しく溌剌としていて、しかもご自身もピアノをお弾きになる方なので、ピアノとのタイミングやコミュニケーションも最高でした。初共演とは思えないほどで楽しかったです。

——高橋アキさんは1995年以来、当館の「ぞうのババール」企画にご出演くださっています。特に思い出に残っていることがありましたら、お聞かせいただけますか？

実はババール以前には、子どものためのコンサートをしたことがなかったので最初はドキドキでした。ステージに出る前に客席を覗いてみると、小さな子どもたちが元気になにやら叫びながら運動会みたいに会場を走り回っています！いったいどうなるのかと心配でした。でも初代の語り手だった長野羊奈子さんが、みんなのお祖母さん（失礼！）のように慈愛に満ちたゆっくりした口調でお話を始めると、お母さん象がいなくなったババールをかわいそう、と子どもたちが涙を浮かべたりしてお話に夢中になっている姿を見て、素敵な企画に参加できたことをとてもうれしく思いました。それから20数回、全国を長野さんと水戸のスタッフの方たちとまわっ

てコンサートをしたのも楽しい思い出です。その長野さんが亡くなってしまわれ、しばらく途絶えていた企画が、柳家花緑さんをお迎えして新たに再出発できたことを本当にうれしく喜ばしく思っています。

——『ぞうのババール』原作者であるジャン・ド・ブリュノフさんのご子息に、ニューヨークでお会いになったそうですが、どんなきっかけがあったのでしょうか？

ジャン・ド・ブリュノフは息子たちのために小象ババールの物語の絵本を作り、出版されて大人気となりました。でも37歳の若さで惜しくも結核で亡くなってしまいました。その後、長男のローランが後を継いでババールの物語の絵本をずっと書き続けてきたのです。フランシス・プーランクは、彼の小さな“いとこ”たちなどのために、ババールの最初の物語「小象ババールの物語」に音楽を作曲しました。ジャン・ド・ブリュノフが描いた2冊目の「ババールの新婚旅行」の物語に、アメリカの作曲家ラファエル・モステルが1990年代になって室内楽編成の音楽を作曲しました。それをニューヨーク・フィルのメンバーなどと一緒に、私がピアノ・パートを演奏しCDにもなりました。その際、ローランと初めて会いました。彼はアメリカの作家フィリス・ローズと結婚してアメリカに住んでいます。彼は尺八も吹く東洋的な風貌の物静かな素敵な紳士でした。この新しい作品のニューヨークでのお披露目のコンサートでは、ローランが語りを務めました。現在91歳でフロリダに住んでいらっしゃいます。

——幼い頃の「音楽との出会い」について、思い出などありましたら教えてくださいませんか？

私の家庭は、父が戦前は音楽雑誌の編集をしたりしていたため音楽関係の本がたくさんありまして、母もピアニストで家ではピアノを教えていたので環境には恵まれていました。ですから格別な“音楽との出会い”はないのですが、幼い頃から毎晩のように、家の離れで母が弾くショパンやベートーヴェンなどのピアノ曲を聴きながら眠りについたあの頃、常に感じていた“音楽への憧れ”は忘れ難いです。

——最後に、コンサートの聴きどころをご紹介します。

前半は小さなお子さんでも弾ける楽しい可愛らしいピアノ曲ですが、サティの曲には楽譜にお話も書き込まれているので同時に語りますし、その音と言葉（曲名も含めて）の掛け合いでイメージを広げていただけることと思います。後半のピアノは技術的には結構難しいのですが、同時に進行するババールが生まれてから結婚するまでの波乱に満ちたドラマの、“語り”と大きな画面に写し出されるたくさんの“絵”によって総合されてひとつとなり、きっとお子さんだけでなく大人の方たちにも楽しんでいただけることでしょう。

2017年1月26日（木）

小さな聴き手のためのコンサート 音楽物語「ぞうのババール」

3/26（日）14:00 開演

会場 水戸芸術館 コンサートホール ATM

全席指定 大人（中学生以上）1,500円

子ども（3歳～12歳）1,000円

出演 高橋アキ（ピアノ・語り）、柳家花緑（語り）

曲目

サティ：子供の音楽集より「絵に描いたような子供らしさ」

渡辺俊幸：いたずら子猫

平吉毅州：踏まれた猫の逆襲

プーランク：音楽物語「ぞうのババール」

（原作：ジャン・ド・ブリュノフ、訳：矢川澄子）



春は卒業シーズン！3月の注目公演のお知らせ



★若きヴァイオリニストたちが、2年間の集大成を披露

「準・メルクル 弦楽器貸与プロジェクト」貸与者による発表会

3月5日〔日〕13:00 開演

出演：市村玲央奈（中学2年）、飛田紗希、城野聖良（以上、高校2年）

★パイプオルガンへの情熱を音にこめて

「市民のためのオルガン講座」実技レッスン受講生による発表会

3月19日〔日〕13:00 開演

出演：寺内弘志（小学4年）、青山真以子、佐藤照己、来栖由香里、青木郁子

会場：エントランスホール 入場無料／予約不要 詳細はチラシや当館ウェブサイトをご覧ください。

3.11_土 at 16:00 井上 修 ピアノ・リサイタル

昨年の11月30日、吉永小百合さんのチャリティ朗読会がありました。村治佳織さんのギターにのせてヒロシマの原爆詩と共に、フクシマの人々の故郷への想いを届けて下さったのですが、恐れ多くもその舞台で数曲演奏させていただきました。平和を祈り願う企画に参加できたことは貴重な経験でしたが、一流どころの共演を間近で見られちゃうという軽〜い気持ちで出演を承諾してしまい、チラシが出来上がってようやく事の重大さに気付いてしまった僕は、今まで経験した事のない類のプレッシャーを感じながらの毎日を過ごす事となったのです！

奇しくも3月11日にリサイタルを開催することになり不思議な力を感じますが、水戸でこの様に演奏活動を再開出来ている幸せを噛み締めながら、まだまだ支援を必要としている方々へ

の祈りを込めて演奏出来たらと思っています。

今回は今まで殆ど手を出さなかったドイツ、オーストリアの作曲家たちを取り上げます。学生の頃師匠から「お前は人前でベートーヴェン(バッハも然り)は絶対弾くな!」とお言葉を頂戴して以来、ドイツ音楽は僕にとって踏み入れてはいけない領域となっておりましたが、ベートーヴェンやバッハ以外なら・・・?という事で、ドイツ三大Bの残り1人ブラームスの3番のソナタを演奏いたします。また古典派からロマン派への橋渡し役のシューベルト、革新的な新ウィーン楽派のベルクと、三者三様な立ち位置のピアノソナタでプログラムを組んでみました。僕の中では新たな試みにこれまでのアプローチでは上手くいかないことも多々あり

四苦八苦しておりますが、初心にかえることも多く、学び続けることの大切さを改めて実感しております。

開演は16時と行楽帰りに好都合な時間だと思われます。観梅ついでにお立ち寄りいただけたら幸いです。

井上 修



REPORT

BOYCOTT RHYTHM MACHINE WORLDWIDE VERSUS I DAIRO SUGA vs JASON MORAN 公演レポート

世界最高峰のピアノが生み出される空間で、 ジャズの新しい可能性を切り拓く2人のピアニストが初共演!

文 高巢真樹

クリスマスを間近に控えたニューヨークで、注目すべき公演が行われた。内容は、当館でもプロジェクト展開中のスガダイローと、ケネディ・センターのジャズ部門で芸術監督を務めるなど、ジャズの新しい可能性を切り拓いているピアニスト、ジェイソン・モランとの共演。会場は、スタインウェイの製造工場である。ピアノの原型たちが静かに佇む空間で、12月17日夜、約150年の工場の歴史上初めて行われた公開コンサートを観察した。

前半はそれぞれのソロ。スガダイローは、鍵盤に挑みかかるようなスタイルと骨太な音色をベースに、ときに倍音を持続させて独特の音響空間を立ち上げながら、ストイックな美意識に満ちた即興が披露された。続くジェイソン・モランは、Aの音の刻みをミニマルに展開する自身のオリジナル曲“Reanimation”でスタート。そのあとはおもむろに白い手袋をはめて低音部を執拗に上下行したり、表情豊かに音色をかえながら展開し、終盤はスウィング感たっぷりの演奏へ。ビバップ以前のジャズスタイルから現代音楽まで、多彩な音楽的要素を自在に操る演奏だった。

そしてその夜のハイライトは、後半に行われた二人の即興デュオ。物憂げなハーモニーから始まった後は、同世代のピアニストならではの、完全に互角でスリリングな音の対話が繰り広げられた。ジェイソン・モランが軽やかにリズムを刻めば、スガダイローがそこに鋭角的に斬り込み、ともに闇夜に沈んだかと思えば不気味に大地が蠢くようにピアノが鳴らされ、スガダイローが強烈な和音を刻めば、ジェイソン・モランは何かによって動かされたように不規則なリズムで足を踏み鳴らしながら高音部で遊び…。何も無いところから二人でマジックを作りあげてしまう凄まじい化学反応に、会場は深い感動と驚きに包まれた。ピアノを愛してやまない演奏家、職人、聴衆が一つとなった素晴らしいひとときだった。



photo : Chris Weiss

2017.1.13, 15, 17

水戸室内管弦楽団 第98回定期演奏会、川崎公演

今回の水戸室内管弦楽団(MCO) 定期演奏会、前半は竹澤恭子さんと川本嘉子さんをソリストに迎えてのモーツァルトの協奏曲。二人と MCO メンバーが、快活に、力強く、機知に富んだ会話を交わすような演奏が繰り広げられた。後半は、小澤征爾総監督率いるベートーヴェンの交響曲第1番。マエストロ小澤と絶大な信頼で結ばれたオーケストラから並々ならぬ躍動感が引き出され、ご感想にも「生命」「喜び」「生きる力」といった言葉が多々見受けられた。最後の川崎公演も、満員のお客様のスタンディングオベーションによって終演した。また14日には、MCO メンバーによる中学生吹奏楽セミナーを開催。《高巣》アンケートから■モーツァルトでの、ソリスト及びメンバーの自発性溢れる活き活きとした音楽はまさしく MCO ならではのもの。そしてベートーヴェンは、何と生命力に溢れた1番だろうか! (東京都の方) ■オーケストラがこんなに幸せそうな表情をしているのを初めて見ました。オケの皆さんが指揮者の表情やわずかな動きに心を寄せ、互いに思いやると、こんな素晴らしい音に昇華するんですね。(神奈川県の方) ■ベートーヴェンの第1番、演奏が生き物のように感じられ、はっとしました。心と心の結びつきが響きになって、生きる上での大切なことを教えていただいたようです。(千葉県の方)

2017.1.21

水戸市民吹奏楽団 第39回定期演奏会

1978年の創設以来、約40年にわたって水戸の吹奏楽を盛り上げてきた水戸市民吹奏楽団(MCB)。これまで定期演奏会を茨城県立県民文化センターで開催してきましたが、今回初めて、水戸芸術館を会場に定期演奏会を開催しました。副題に「MCB Classics 〜吹奏楽でつづる音楽史〜」と銘打って、バッハから始めて、古典派、ロマン派、近代の音楽を経て、現代の吹奏楽作品までを追いかけるプログラム。指揮は仁平良治氏(第1部)と浅野正樹氏(第2部)、梶原征剛氏(昨年亡くなった初代団長の石田隆昭氏への追悼演奏)でした。アンコール曲およびコンサート前にエントランスホールで開催したウェルカムコンサートの曲目は、ホームページをご覧ください。《篠田》アンケートから■あまりの迫力に鳥肌が立ちました。また聴きに來たいです。(水戸市の方) ■ステージのみでなく2階席からの演奏等もあって、目でも楽しむことができました。(日立市の方) ■みんな働きながらの練習、きつとがんばったんでしょネ!(那珂市の方)

2017.1.22

サイトウ・キネン・オーケストラ プラス・アンサンブル

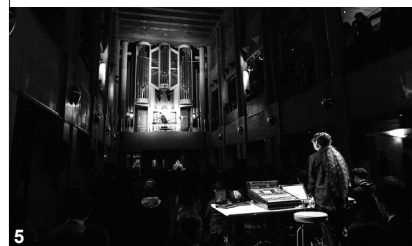
我らが MCO のホルン奏者ラデク・バボラークのほか、ガボール・タルコヴィ(トランペット/ベルリン・フィル首席)、ヨハン・シュトレッカー(バス・トロンボーン/ウィーン・フィル)など世界の超一流メンバーから構成されたプラス・アンサンブルが彼らの本拠地・松本を飛び出して、東京、広島のほか水戸でも演奏会を行った。前半はクラシック、後半はポピュラーというプログラム。もう何を演奏しても、妙技で聴く者を魅了し、格調高いエンターテインメントを披露した。アンコールの演奏中、この日誕生日を迎えたパーカッションの竹島悟史氏のために〈ハッピー・バースデー・トゥ・ユー〉でお祝いする一幕もあった(エルガー「威風堂々」がいつの間にかハッピー・バースデー)に変わるといふメンバーによる見事なアレンジだった。《関根》アンケートから■1曲目から感動しっぱなしでした。すごすぎる。もう一度聴きたいです!(水戸市の学生の方) ■これぞ金管!という音も、木管のように柔らかく繊細な音も、様々楽しめてとても良かったです。ジャズやポップス等も親しみやすく、最後まであつという間でした。(北茨城市の方) ■サイコー! アンコールのサプライズにはもらい泣きしてしまいました。メンバーの愛があふれていて、すばらしい空気の中のコンサート。忘れられない1日になりそうです。(取手市の方)

2017.1.28

SUGADAIRO PROJECT vol.2 「秘境／魔境」

スガダイローのプロジェクト第2弾。第1部「秘境」は、パイプオルガン、ピアノ、エレクトロニクスによる音響表現の共演。近藤岳さんの荒々しさと神々しさを兼ね備えたオルガン演奏と、スガさんの強靱かつ内部奏法も交えた自由な演奏が火花を散らし、有馬純寿さんは会場全体に設置したスピーカーを通じて、2人の音素材や音響成分を加工したり、音をぐるぐる巡らせたり。三者の驚異的なセッションによって、エントランスホールは一つの巨大な生き物か宇宙のような、未知の音空間となった。第2部「魔境」は ACM 劇場にてダンサー田中泯さんとの共演。ピアノの音を、泯さんが身体の隅々で鋭敏に受け止め、音と動きの往還が濃密な踊りと音楽のひとときに昇華した。水戸芸術館各所を舞台に、前代未聞のステージを繰り広げた4人の表現者へ、終演後熱い拍手が贈られた。《高巣》アンケートから■言葉のない物語が突き上げてきて、通り過ぎていった。嵐のようであった。公演というより“事件”ではなかったか! 境界を超えた素晴らしい作品。(水戸市の方) ■スガさんのピアノ、不協和音なのに音のひとつひとつに命があるように聞こえて本当にすばしかったです。(東京都の方) ■ピアノとオルガンの競演は、水戸芸術館ならではの組み合わせで圧倒された。第2部は田中さんの原始的で生命力みなぎる表現に見惚れた。(水戸市の方)

最近の公演から



1-2: 水戸室内管弦楽団 第98回定期演奏会 / 川崎公演

3: 水戸市民吹奏楽団 第39回定期演奏会

4: サイトウ・キネン・オーケストラ プラス・アンサンブル

5-6: SUGADAIRO PROJECT vol.2「秘境／魔境」

「準・メルクル 弦楽器貸与プロジェクト」貸与者募集のお知らせ

専属楽団・水戸室内管弦楽団と長年共演している指揮者、準・メルクルさんから寄贈されたヨーロッパ製の弦楽器（ヴァイオリン4挺、ヴィオラ2挺）を、音楽を学ぶ茨城の学生の方に貸与いたします。申込方法の詳細は当館ウェブサイトやチラシをご覧ください。

【応募資格】 下記のいずれかに該当する学生の方（大学院生を含む）

1. 茨城県に本籍を有する
2. 現在、茨城県内に居住している
3. 現在、茨城県内に通学している
4. 過去において茨城県内に居住・通学したことがある

【申込受付期間】 2017年4月5日（水）～4月20日（木）当日必着

【審査】・書類審査（応募書類による審査）
・実技審査 2017年4月30日（日）14:00～（会場：コンサートホールATM）

【審査員】堀 伝（水戸室内管弦楽団楽団長）、中村静香（同楽団メンバー）

【お問い合わせ】水戸芸術館「準・メルクル 弦楽器貸与プロジェクト」係
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL 029-227-8118（担当：高巢、中村）

チケット・インフォメーション

《2月26日（日）発売》

■水戸室内管弦楽団 第99回定期演奏会

（第2部指揮：小澤征爾、ピアノ：マルタ・アルゲリッチ）

5/12（金）19:00開演、5/14（日）15:00開演

料金【全席指定】S席 ¥28,000 / A席 ¥25,000 / B席 ¥20,000

※水戸室内管弦楽団第99回定期演奏会には、2/22（水）より財団運営維持会員、2/23（木）より友の会（一般、法人）会員の先行電話予約がありますので、2/26（日）の一般発売の時点で、公演日や券種によってはお客様のご希望に添えない場合があります。予めご了承ください。

※発売初日に芸術館でお求めになれるチケットは、水戸室内管弦楽団第99回定期演奏会では、お1人様1回につき2枚までとさせていただきます。

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり（20席以上） △…残席わずか（20席未満） ×…残席なし
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席
◎宮田大 チェロ・リサイタル

……………3/3（金）中央×、左右・裏○、補助○

◎井上修 ピアノ・リサイタル

……………3/11（土）自由席○

◎小さな聴き手のためのコンサート 音楽物語「ぞうのババール」

……………3/26（日）中央○、左右○

◎ちよっとお昼にクラシック 小林沙羅（ソプラノ）～母の祈りの子守歌～

……………4/9（日）中央○、左右○

※2/2（木）現在の状況です。

※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な3月のスケジュール

コンサートホールATM

■宮田大 チェロ・リサイタル

3/3（金）19:00開演

料金【全席指定】一般 ¥3,000 / ユース（25歳以下）¥1,000

■井上修 ピアノ・リサイタル

3/11（土）16:00開演

料金【全席自由】一般 ¥3,000 / 大学生以下 ¥1,500

■水戸市内中学校 東関東吹奏楽・関東合唱コンクール出場記念演奏会

□3/12（日）11:00開演 第一中学校 / 15:00開演 第二中学校

□3/18（土）11:00開演 第四中学校

入場無料【全席自由】

■小さな聴き手のためのコンサート 音楽物語「ぞうのババール」

3/26（日）14:00開演

料金【全席指定】大人 ¥1,500 / 子ども（3歳以上12歳以下）¥1,000

エントランスホール

■「準・メルクル弦楽器貸与プロジェクト」貸与者による発表会

3/5（日）市村玲央奈、飛田紗希、城野聖良（以上ヴァイオリン）

13:00～（50分程度）入場無料

■パイプオルガン プロムナード・コンサート

□3/12（日）中澤末帆 12:30～ / 13:30～（各回30分程度）入場無料

□3/19（日）「市民のためのオルガン講座」受講生による発表会

13:00～（60分程度）入場無料

ACM劇場

■未来サポートプロジェクト vol.9『和 JAZZ』

3/4（土）15:00開演

料金【全席指定】S席 ¥3,000 / A席 ¥2,500 / B席 ¥2,000

■平成28年度「水戸子どもミュージカルスクール」発表公演『雪のプリンセス』

3/25（土）16:00開演、3/26（日）16:00開演

料金【全席指定】子ども（3歳～中学3年生）¥800 / 大人 ¥1,500

現代美術ギャラリー

■藤森照信展—自然を生かした建築と路上観察

3/11（土）～5/14（日）9:30～18:00 ※入場は17:30まで

【休館日】月曜日 ※ただし、3/20（月・祝）は開館、翌3/21（火）休館

【入場料】一般 ¥800 / 前売り・団体（20名以上）¥600

※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料

■水戸路上観察学会総会

3/11（土）13:30～15:30 【会場】みと文化交流プラザ6階

【定員】200名（先着順・予約不要）【料金】無料

■高校生ウィーク2017

3/11（土）～4/9（日）【無料招待対象】高校生または15歳～18歳の方

※学生証または年齢がわかる証明書をご提示ください

【カフェ開場時間】（火～金）15:00～18:00、（土・日・祝）13:00～18:00

【カフェ会場】現代美術ギャラリー内ワークショップ室

水戸の主な3月の演奏会

■常陽藝文センター（常陽藝文ホール）TEL / 029(231)6611

・茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート 3/5（日）14:30開演

（水戸芸術館友の会【一般・法人】、財団運営維持会員および藝文友の会会員と学生は無料）

チケットに関するお問い合わせ

水戸芸術館チケット予約センター TEL 029-231-8000

営業時間：9:30～18:00（月曜休館）

公演内容や企画に関するお問い合わせ

水戸芸術館音楽部門 TEL 029-227-8118

ホームページ <http://arttowermito.or.jp/>

公式ブログ <http://blog.arttowermito.or.jp/staff/>

ATM便り 毎月1回茨城新聞に不定期登場



@ConcertHall_ATM @art_tower_mito

www.facebook.com/arttowermito

編集後記

友人が立派なタコを手に入れたので、古いホットプレートがいつの間にか処分されていた事もあり、タコ焼き器付きの上等なものを買いしました！（出資者は父。）以来、タコバー三昧。呼ばれればどこへでも出張します。（り）

一ヶ月前なら夕方にはもう空が真っ暗になっていたのに、随分と日が長くなりました。暦の上ではもうすぐ春。昼間は暖かいときもありますが、寒い日はまだまだ続きそうです。防寒対策や風邪予防など体調管理をしっかりした上で、早く春を迎えたいものです。（峠）

先日の『プラタモリ』でもやっていましたが、水戸芸術館のある中心街は丘陵で、那珂川や千波湖の方に向かって下る沢山の坂道や階段道があります。この道はどこにつながるの？と気になる道も。休日に散歩したいな。（篠）

これからMCOウィークという大事な時にインフルエンザに罹患。本当に申し訳なく、情けない思いでした。NHK水戸放送局による演奏会同時中継を自宅で鑑賞するという普段なら有り得ない機会を得、魂を鼓舞されました。（て）

睦月の末。「館のあちこちを舞台に、1つの枠におさまりきらない公演を」という夢が実現できた。しかも想像を遥かに上回るスケールで！小さなアイディアを何倍も豊かに実らせてくださった関係者の皆さんに感謝です。（樹）

6月に「作曲家の肖像」シリーズのー環でヘルムート・ラッペンマン特集する。ラッペンマン氏は、小澤館長と同じ1935年生まれだが、今回の公演のために来日してくださる予定だ。氏の新作の日本初演も。乞うご期待！（中）

水戸芸術館音楽紙「ヴィーヴォ」

2017年3月発行 第216号

編集発行：水戸芸術館音楽部門

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL 029-227-8118 FAX 029-227-8130

E-MAIL ankmr@arttowermito.or.jp

URL <http://arttowermito.or.jp/>

編集：水戸芸術館音楽部門（五十音順）／石井亮子

大峠百合香 篠田大基 関根哲也 高巢真樹 中村晃

デザイン・印刷所：山三印刷株式会社